

第3章 中国¹

-WTO 加盟後の貿易構造の変化-

樋口倫生

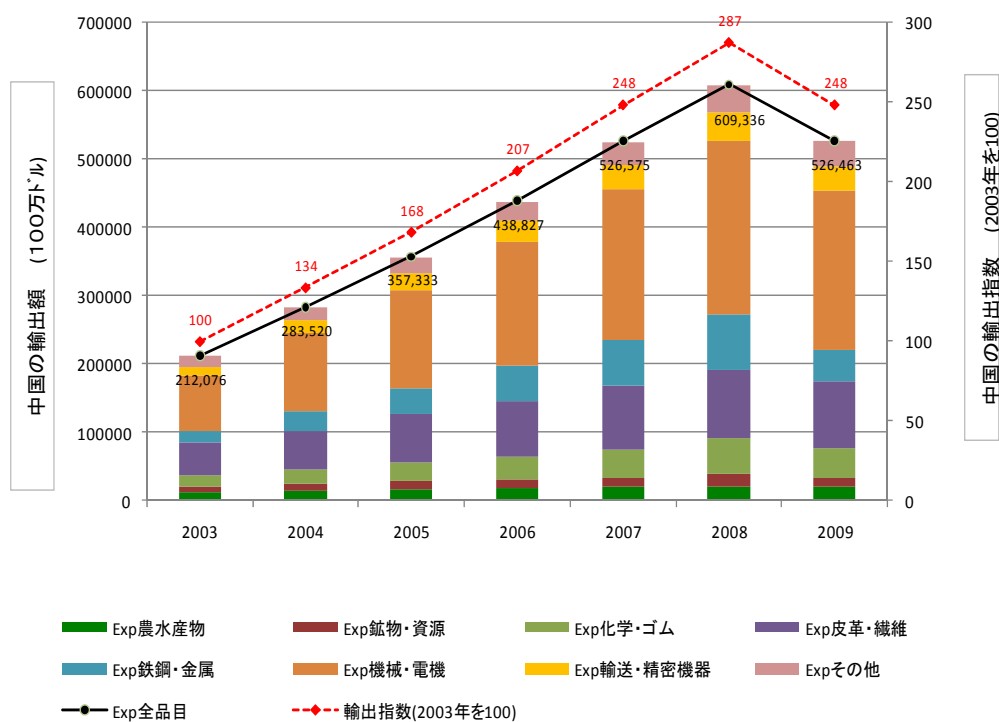
1. 貿易の概要²

(1) アジア太平洋諸国との輸出入

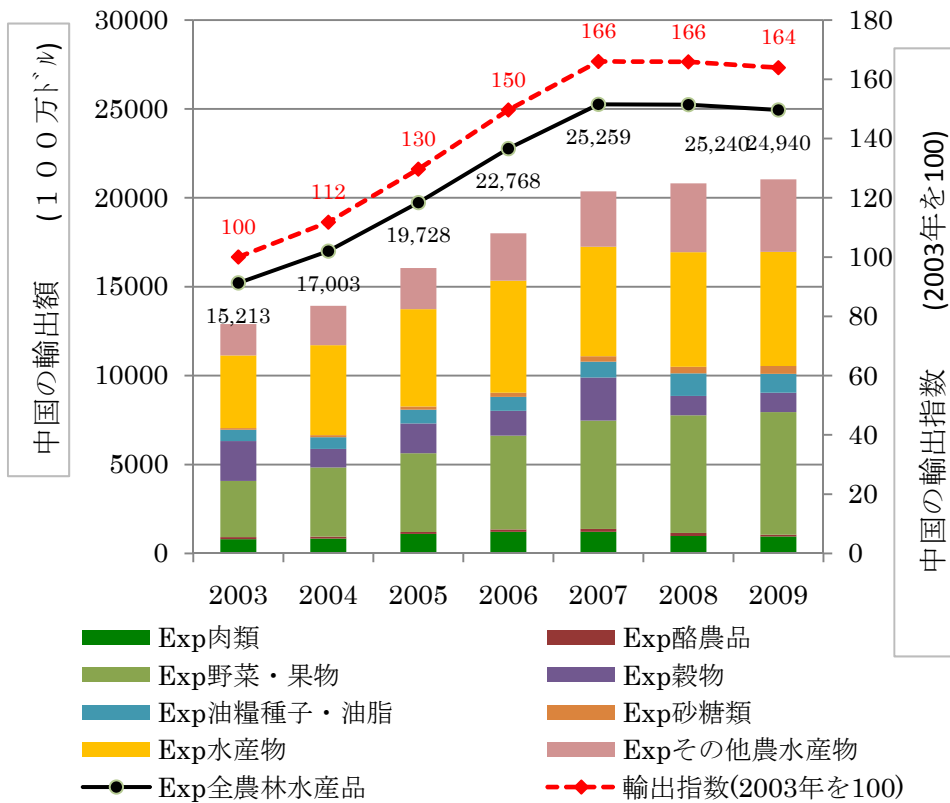
1) 中国からアジア太平洋諸国への輸出

中国は、2001年12月にWTOに正式加盟した。本節では、加盟後の貿易構造の変化をアジア・太平洋諸国との関係で観察していく。

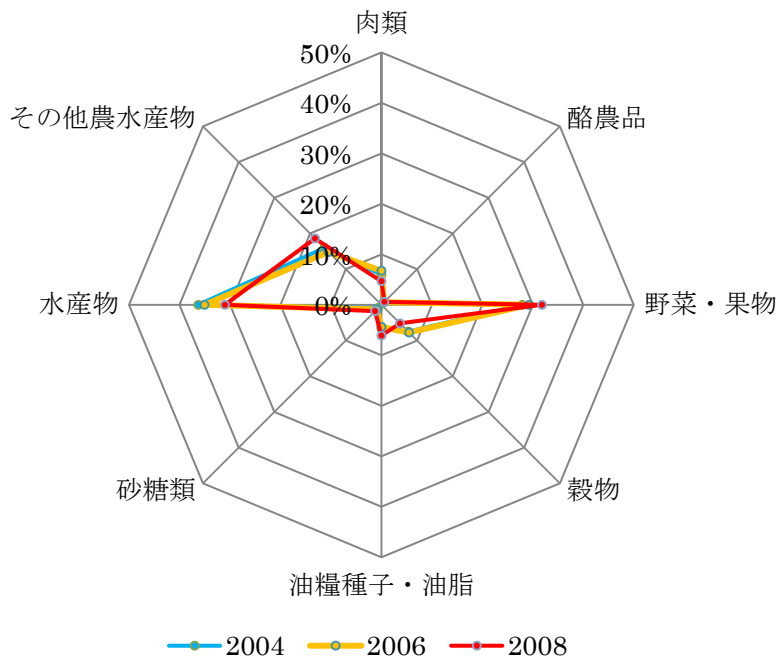
中国からアジア・太平洋諸国に向けた輸出の総額をみると(第3-1図)、2003年に2121億ドルであったが、2008年に最高値の6093億ドルを記録するまで増加した後、リーマンショックによる世界金融危機の影響で、2009年に5264億ドルまで急減している。一方農水産品は(第3-2図)、必需品であるため輸出の価格弾力性が小さく、名目値ベースであるが、252億ドル(2008年)から249億ドル(2009年)までわずかに減少した。



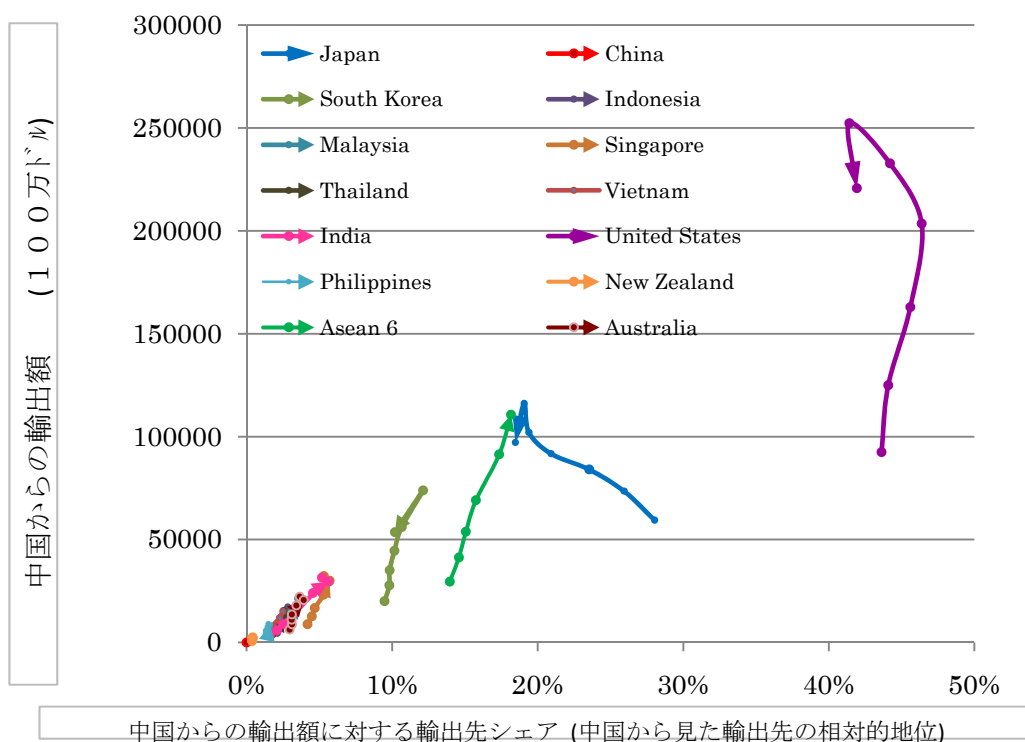
第3-1図 中国のアジア太平洋諸国への全品目輸出



第 3-2 図 中国のアジア太平洋諸国への農水産品輸出



第 3-3 図 中国の輸出額における品目分類別構成比の経年変化（農水産物）



第3-4図 中国の輸出額と輸出先別のシェアの推移 (全品目)

2003年の全体の品目別輸出をみると(第3-1図)、機械・電機(810億ドル)や皮革・繊維(485億ドル)が大きく、次いで鉄鋼・金属(175億ドル)となっている。農水産物は、6番目に位置しており、129億ドルであった。農水産物輸出の内訳は(第3-2図)、水産物(41億)、野菜・果物(32億ドル)、穀物(23億ドル)となっている。

次いで、2008年の全体の輸出を確認すると(第3-1図)、機械・電機(2532億ドル)が圧倒的であり、皮革・繊維が996億ドル、鉄鋼・金属が807億ドルとなっている。農水産物は、あまり大きなものではなく、全体で7番目の209億ドルである。

農水産物の構成は、野菜・果物(66億ドル)、水産物(65億ドル)が大きく、その他農産物(39億ドル)が続いている。2000年代においてシェアが高い農水産品目は、以上の3つの部門でほぼ固定されていた(第3-3図)。

全品目の輸出額と輸出先シェアの推移に関しては、日本向けの輸出額が2008年まで増加しているが、シェアは顕著に低下している(第3-4図)。シェアについては、日本に代わり、ASEAN6向け輸出が拡大していることが見て取れる。アメリカ向け輸出は、2008年まで総額で増加しているが、シェアでは2003年から2009年まで40%強の水準を維持している。

2) アジア太平洋諸国から中国への輸出

中国がアジア・太平洋諸国から輸入する金額は(第3-5図)、1603億ドル(2003年)

から 4143 億ドル(2008 年)まで 2.6 倍近く増加し、2009 年に 3875 億ドルとなっている。

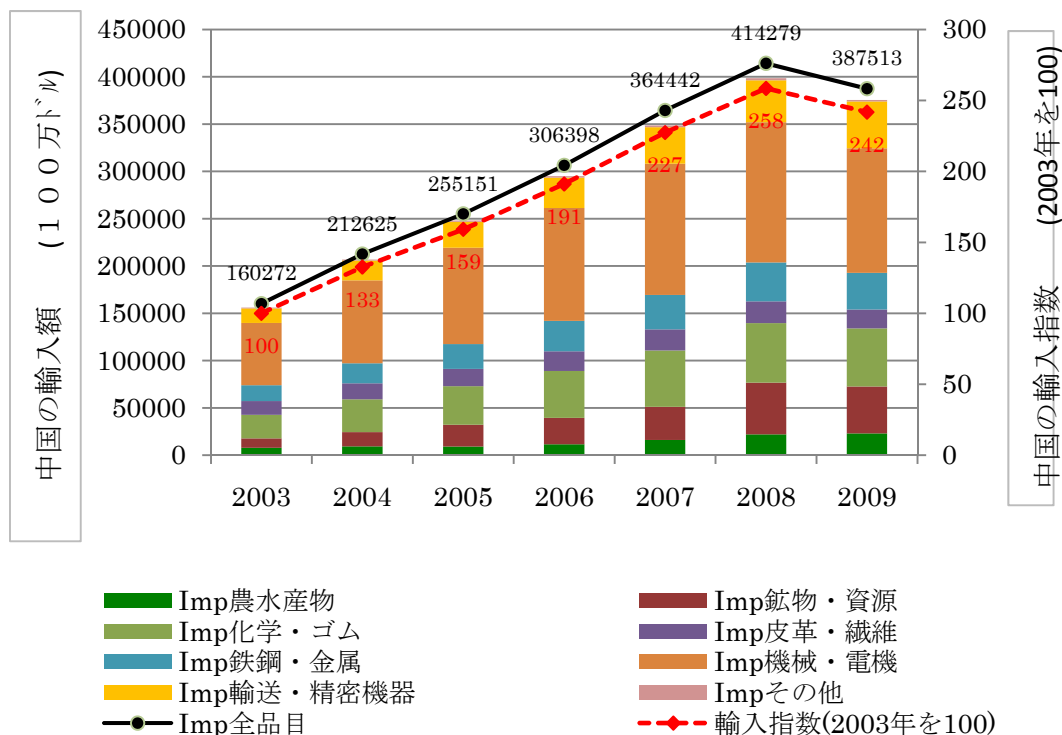
2003 年の品目をみると、輸出同様に機械・電機(658 億ドル)が一番大きく、次いで化学・ゴム(248 億ドル)、鉄鋼・金属(167 億ドル)、輸送・精密(155 億ドル)となっている。

農水産物の輸入は 79 億ドルで(第 3-6 図)、輸送・精密の半分の水準であり、内訳は、油糧種子・油脂(47 億ドル)、その他農産物(9 億ドル)である。

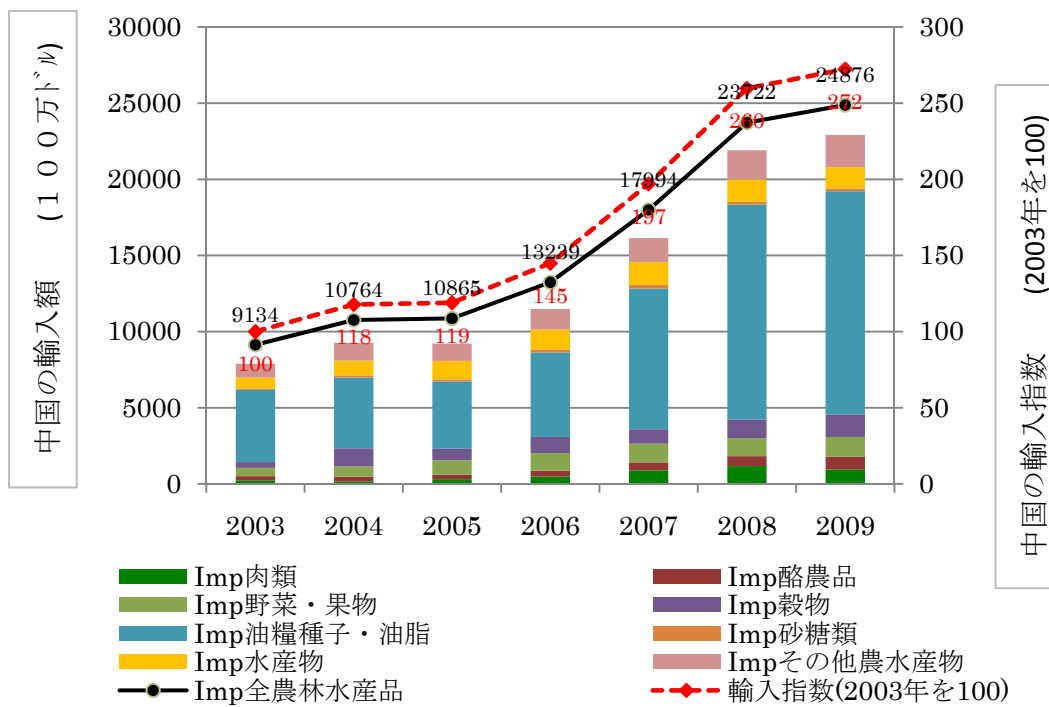
2008 年には、機械・電機(1483 億ドル)が突出して大きくなっており、化学・ゴム(629 億ドル)が続いている。第 3 位は、2003 年とは異なり、鉱物・資源(547 億ドル)であった。この事実は、経済成長で工業化が進むにつれて、鉱物・資源に対する需要が拡大していることを反映していると思われる。

農水産物に目を向けると、221 億ドルで、2003 年同様、輸入額が小さい品目に属する。その内容は、油糧種子・油脂(141 億ドル)が圧倒しており、次にその他の農産物(19 億ドル)となっている。第 3-7 図を見ると分かるように、中国の農産物輸入の最大の特徴は、油糧種子・油脂の比率が一貫して高い点である。油糧種子・油脂の輸入先国については(第 3-8 図)、米国が半分以上のシェアを占めているが、マレーシアやインドネシアからも大量に輸入している。

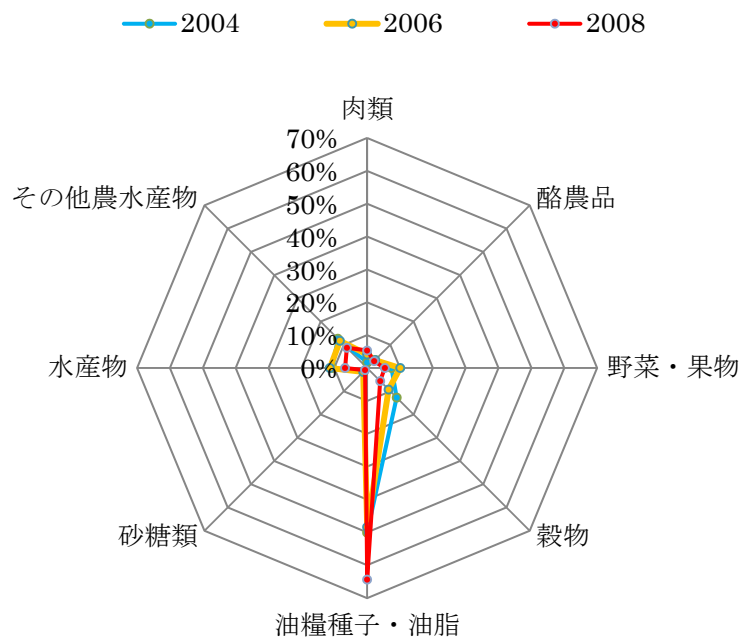
全品目の輸入額と輸入先シェアでは、徐々に低下しているとはいえ、日本からの輸入が非常に大きい(第 3-9 図)。続いて、韓国、ASEAN6、米国となっている。



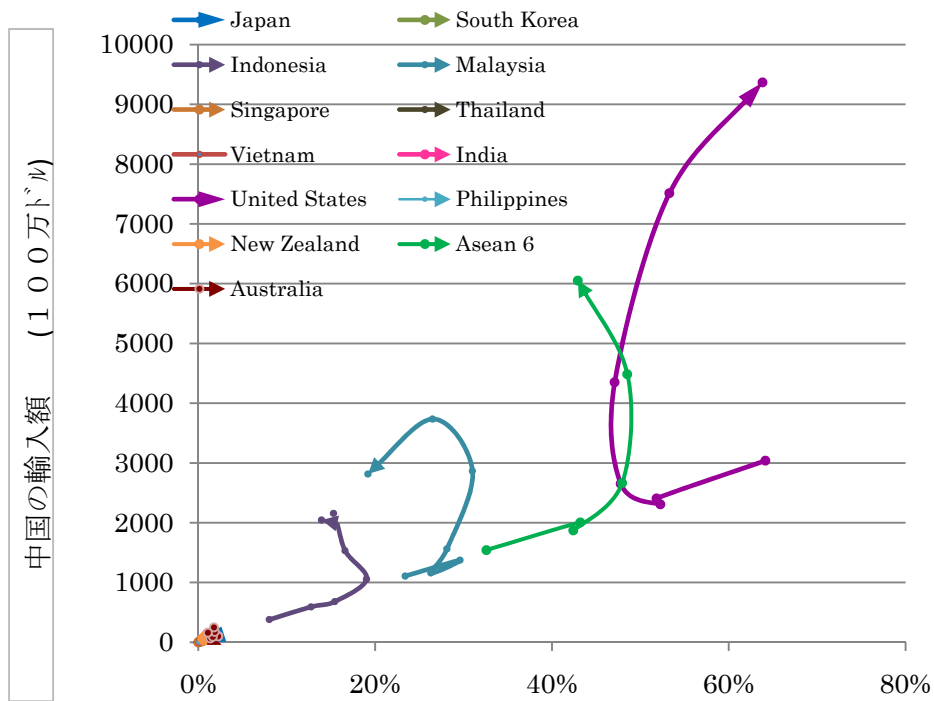
第 3-5 図 アジア太平洋諸国から中国への全品目輸出



第 3-6 図 アジア太平洋諸国から中国への農産物輸出

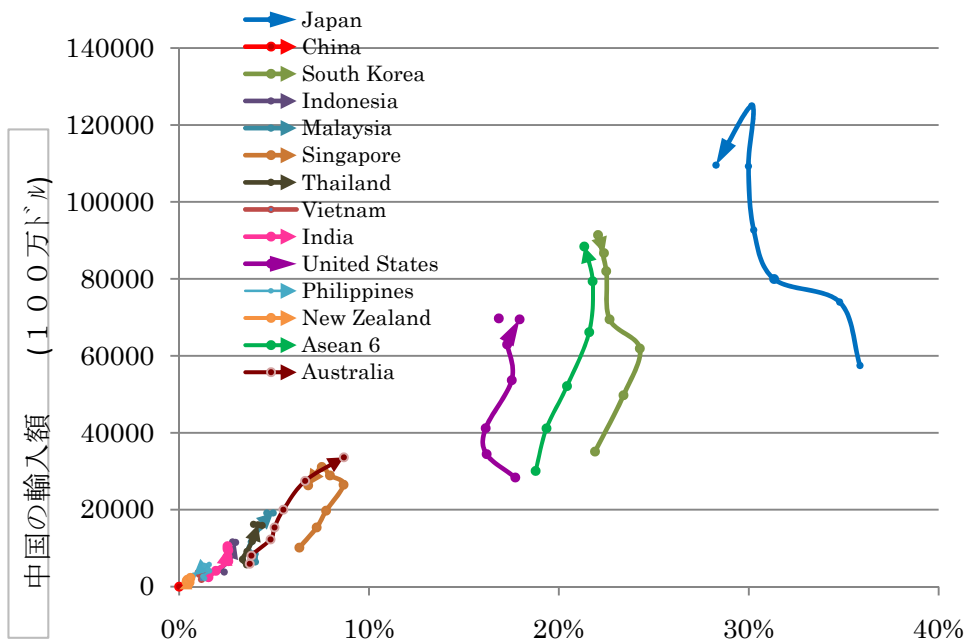


第 3-7 図 中国の輸入額における品目分類別構成比の経年変化



中国の輸入額に対する輸入先シェア (中国から見た輸入先の相対的地位)

第 3-8 図 中国の油糧種子・油脂輸入額と輸出先別のシェアの推移



中国の輸入額に対する輸入先シェア (中国から見た輸入先の相対的地位)

第 3-9 図 中国の輸入額と輸入先別のシェアの推移 (全品目)

(2) 競争力指数

アジア・太平洋諸国における中国の競争力指数を2003年と2008年について計算した結果が第3-10図に示されている。2003年の競争力は、その他(0.91)、皮革・繊維(0.54)、農水産物(0.28)などで高く、化学・ゴム(-0.25)、鉱物・資源(-0.11)、輸送・精密機器(-0.10)で低い。

その他に関しその内容を調べると、HS部類第94類(家具、寝具など)と第95類(玩具、遊戯具および運動用具など)での輸出額が多い。したがって皮革・繊維や農水産物を含め、労働集約的な産業で、豊富な低賃金労働を武器に輸出競争力を高めていたと思われる。一方、化学・ゴムは資本集約的な、輸送・精密機器は知識・技術集約的な産業であり、この時点の中国では、資本などの生産要素蓄積が相対的に小さく、これらの部門が比較劣位産業であったことが分かる。

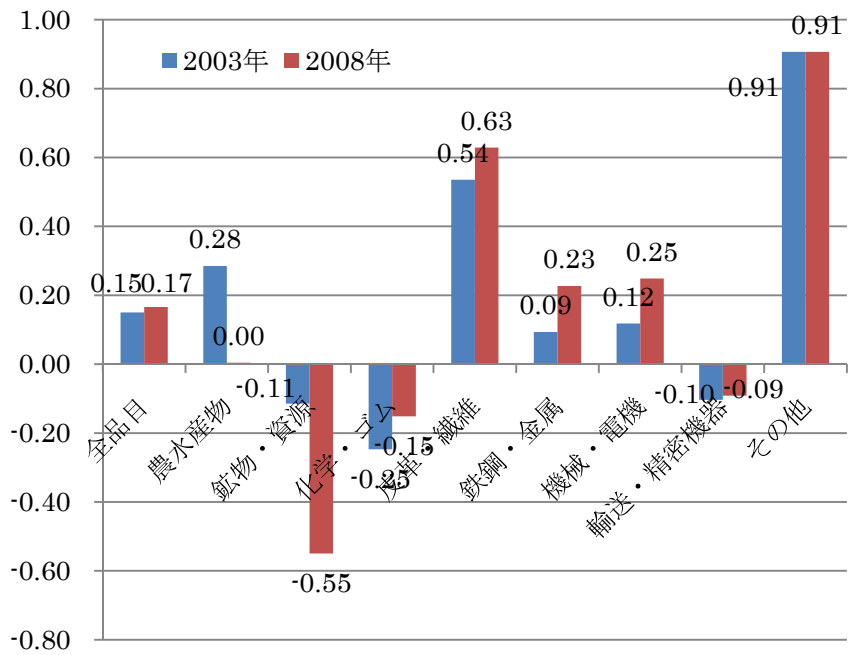
2008年の指数をみると、依然としてその他(0.91)や皮革・繊維(0.63)で競争力を維持しているが、農作物では0となっており、競争力が低下し輸出入が均衡した状態にある。この時期には、農業に代わって、鉄鋼・金属(0.23)や機械・電機(0.25)の競争力が向上しており、この構造変化から、中国の比較優位産業が、農業(土地利用部門)から資本集約的な部門に移行していることが窺える。

これまで、中国農業が、2003年から2008年にかけて、急激に競争力を喪失していったことを観察した。では次に農業内部での競争力はどのように変化していたのかをみていこう。2003年は、各品目の競争力指数から判断すると、労働集約的な野菜・果物(0.77)や水産物(0.72)、土地利用型の穀物(0.45)、さらに肉類(0.64)での高い競争力が、農業部門全体の競争力を高めていたといえる。野菜に関しては、安価な労賃のもとで、温室ハウスで周年生産し、かつ品種改良や栽培技術の改善を行っていたためである。水産物は、特にウナギの養殖産業の貢献が大きい(厳、2003)。

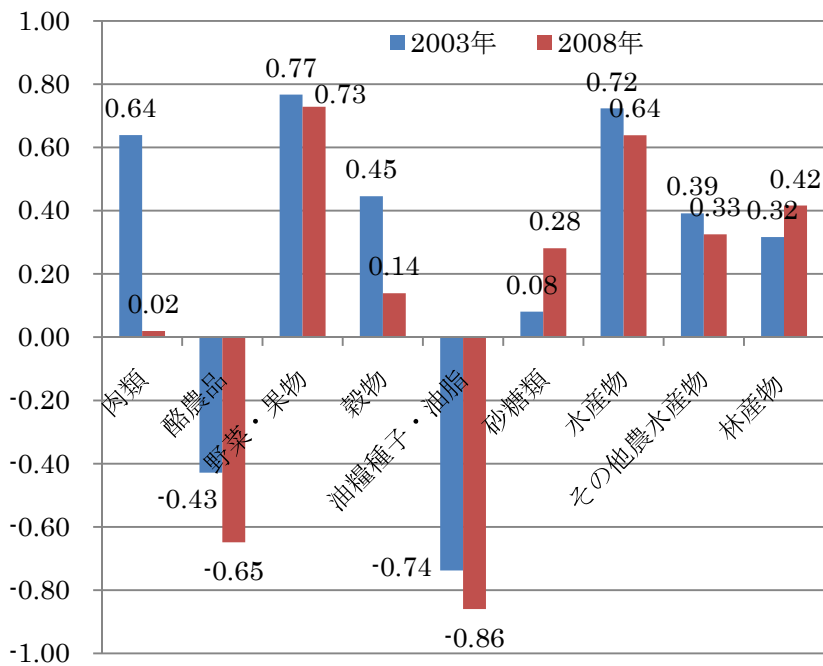
ただし穀物の競争力の解釈には、注意を要する。中国農業の特徴は、土地に対する労働の比率が大きいことであるが、なぜこの時期の穀物に競争力があつたのだろうか?この点は、厳(2003)が指摘するように、補助金の影響と思われる。例えば2001年には、トウモロコシに関し、1キロあたり46ドルほどの補助が与えられており、これによって、数値の上では、競争力がある部門となっていた。

全体の競争力が弱まる2008年の農水産業内の値をみると、野菜・果物(0.73)と水産物(0.64)で依然として高く、競争力を維持しているが、穀物(0.14)や肉類(0.02)で大幅に低下しているのが分かる。穀物については、補助金による競争力の維持が限界に達したことに起因すると思われる。

またこの期間では、2003年に既に比較劣位産業であった酪農や油糧種子・油脂が一層競争力を低下させており、そのような負の効果や穀物、肉類の競争力の低下などが総合的に作用して、全体の競争力が弱化していたといえる。



(a) 全品目



(b) 農林水産物

第3-10図 中国のアジア太平洋諸国に対する競争力指数

2. 中国とアジア太平洋諸国との2国間貿易

(1) 中国とアジア太平洋諸国との2国間貿易

中国とアジア太平洋諸国との貿易で、中国の主要輸出相手国（中国が輸出する国）は、アメリカ（2522億ドル）、日本（1153億ドル）、韓国（739億ドル）となっている（以下、第3-11図参照）。逆に、主要輸入相手国（中国が輸入する国）は、日本（1175億ドル）、韓国（914億ドル）、アメリカ（691億ドル）である。以上から分かるように、金額ベースで判断すると、中国にとって、日本、韓国、アメリカが最も重要な貿易パートナーといえる。

貿易収支に目を向けると、日本、韓国、タイ、オーストラリアからの輸入が輸出を超過しているが、アメリカとは大幅な貿易黒字を記録している。日本、韓国、タイから機械・電機を、オーストラリアからは鉱物・資源を大量に輸入し、これらを用いて生産した製品（機械・電機）を米国へ輸出する構造となっている。

中国と個別国家との貿易を確認すると、日本に対し、機械・電機、皮革・繊維の輸出が多く、日本からの輸入は工業品であり、機械・電機、化学・ゴム、鉄鋼・金属、輸送・精密機器の順となっている。中国から日本への輸出総額は1153億ドル、日本から中国への輸出総額は1176億ドルで、収支の赤字は少額である。

韓国とは、機械・電機、鉄鋼・金属の輸出が多く、輸入では、機械・電機、化学・ゴム、輸送・精密機器が上位にある。韓国との貿易は、日本同様に赤字であり、中国から韓国への輸出総額は739億ドル、韓国から中国への輸出総額は914億ドルとなっている。

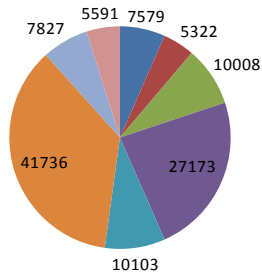
タイとの貿易では、機械・電機、鉄鋼・金属、化学・ゴムの輸出が多く、一方輸入については、機械・電機と化学・ゴムの比重が大きい。中国からタイへの輸出総額は155億ドル、タイからの輸入総額は162億ドルで収支は赤字である。

オーストラリアに対しては、機械・電機、皮革・繊維、鉄鋼・金属の輸出が多く総額で222億ドルとなっている。輸入額は248億ドルで、そのうち192億ドルが鉱物・資源であり、圧倒的なシェアである。

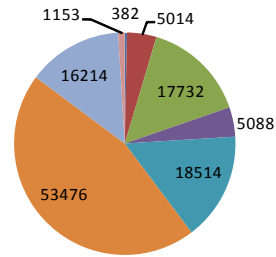
アメリカとの貿易は、先述したように、多額の貿易黒字となっている。主要な輸出品は機械・電機、皮革・繊維であり、輸入品目は機械・電機、化学・ゴム、農水産物である。この輸入で、農産物（101億ドル）が上位にあるのは、注目に値する。輸入農産物は、主に大豆であり、近年における大豆生産の比較劣位性を反映した現象といえる。

その他の国家に関しても、図を通じて簡単にみておくと、インドネシアからは鉱物・資源を大量に輸入していることがみてとれる。マレーシアとは、相互に機械・電機の貿易を活発に行っている。フィリピンやシンガポールとは、機械・電機の輸入が、輸入総額の半分を超えているのが特徴である。ベトナムやインドとの貿易では、鉱物・資源の輸入が大きく、ニュージーランドからの輸入は、農水産物が多い。

- 農水産物
- 鉱物・資源
- 化学・ゴム
- 皮革・繊維
- 鉄鋼・金属
- 機械・電機
- 輸送・精密機器
- その他



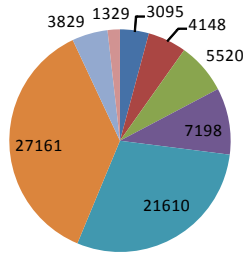
中国 から 日本 への輸出
総額 115339百万ドル



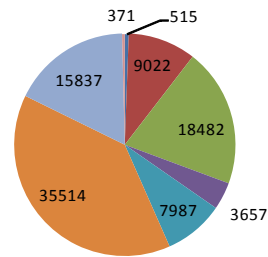
日本 から 中国 への輸出
総額 117573百万ドル

(2008年, 百万ドル)

- 農水産物
- 鉱物・資源
- 化学・ゴム
- 皮革・繊維
- 鉄鋼・金属
- 機械・電機
- 輸送・精密機器
- その他



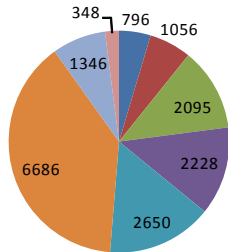
中国 から 韓国 への輸出
総額 73890百万ドル



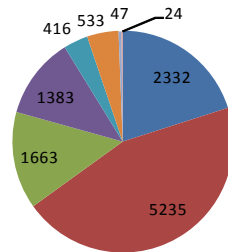
韓国 から 中国 への輸出
総額 91385百万ドル

(2008年, 百万ドル)

- 農水産物
- 鉱物・資源
- 化学・ゴム
- 皮革・繊維
- 鉄鋼・金属
- 機械・電機
- 輸送・精密機器
- その他



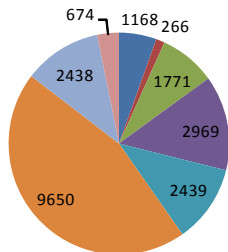
中国 から インドネシア への輸出
総額 17205百万ドル



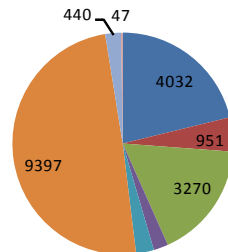
インドネシア から 中国 への輸出
総額 11633百万ドル

(2008年, 百万ドル)

- 農水産物
- 鉱物・資源
- 化学・ゴム
- 皮革・繊維
- 鉄鋼・金属
- 機械・電機
- 輸送・精密機器
- その他



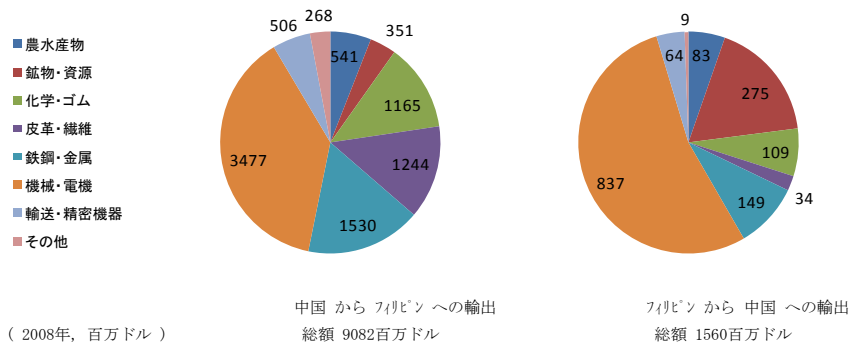
中国 から マレーシア への輸出
総額 21375百万ドル



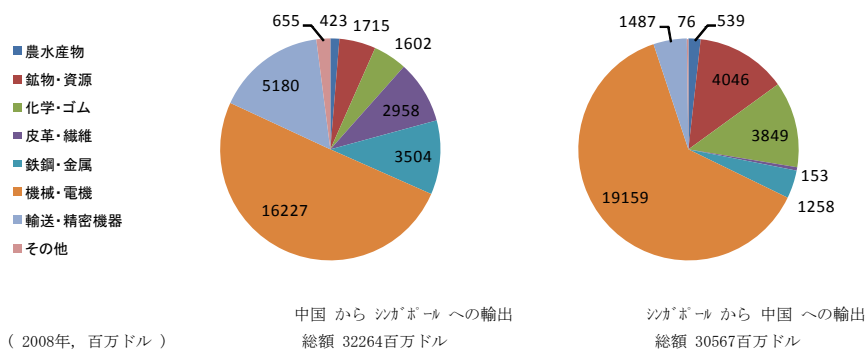
マレーシア から 中国 への輸出
総額 19039百万ドル

(2008年, 百万ドル)

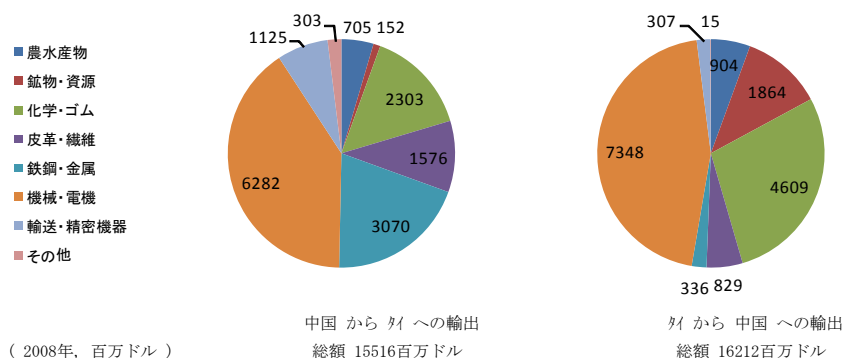
第 3-11 図 中国とアジア太平洋諸国との全品目貿易 (その 1)



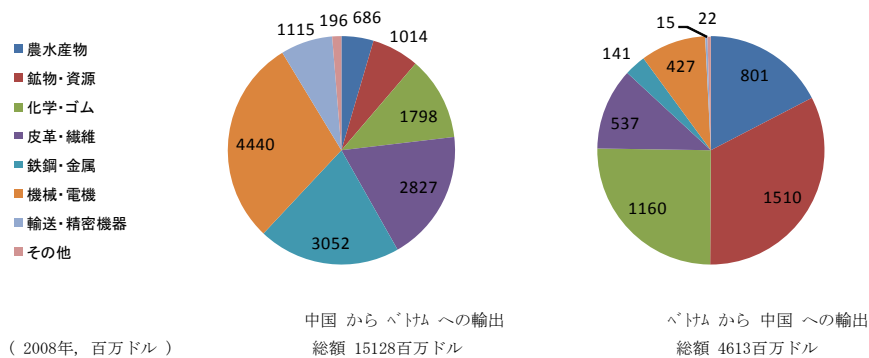
(2008年, 百万ドル)



(2008年, 百万ドル)

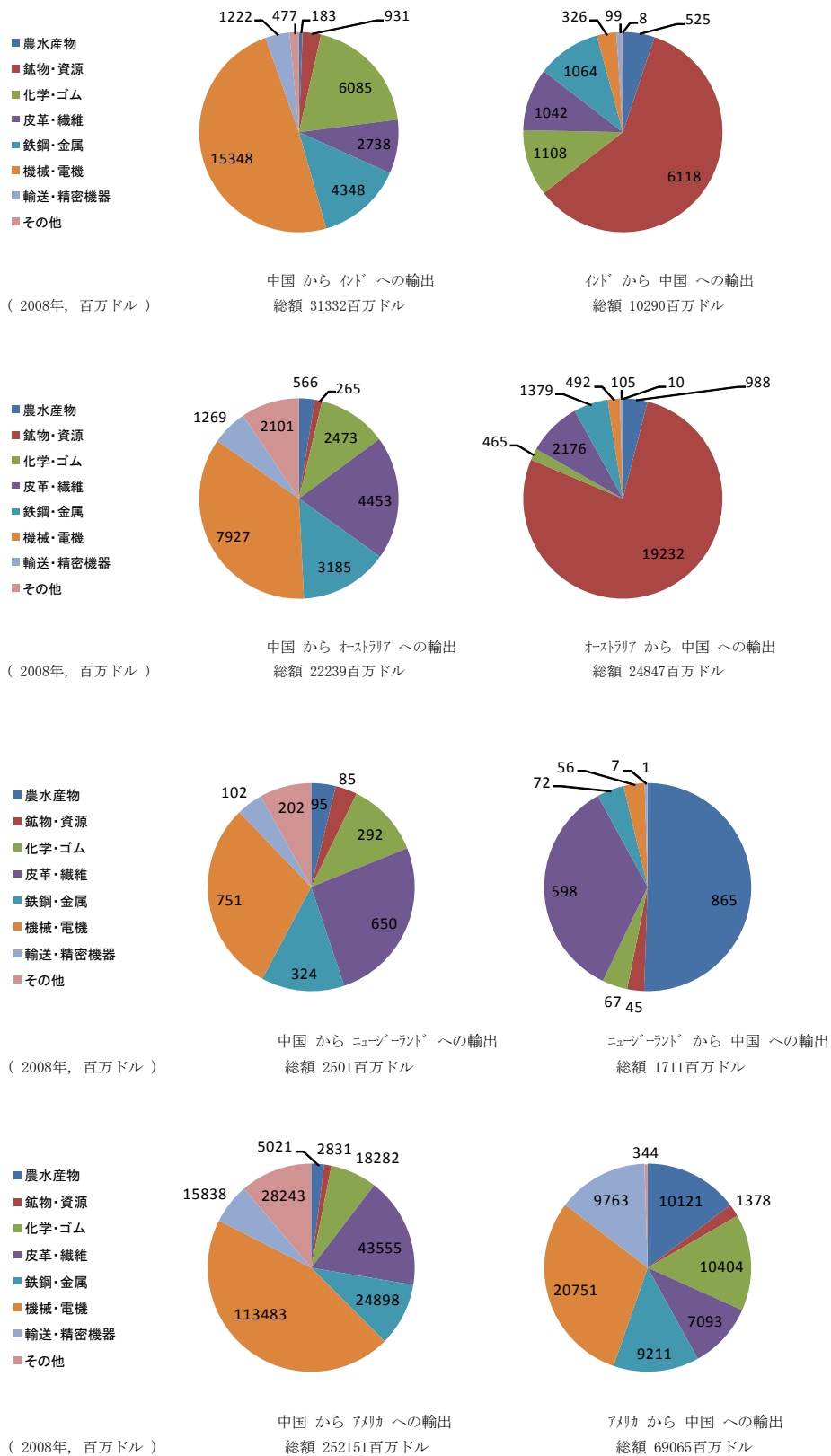


(2008年, 百万ドル)



(2008年, 百万ドル)

第 3-11 図 中国とアジア太平洋諸国との全品目貿易 (その 2)



第3-11図 中国とアジア太平洋諸国との全品目貿易 (その3)

(2) 農林水産物の2国間貿易

中国の農産物主要輸出相手国（中国が輸出する国）は、日本（76億ドル）、アメリカ（50億ドル）、韓国（31億ドル）、マレーシア（12億ドル）となっている（以下、第3-12図参照）。

農産物主要輸入相手国（中国へ輸出する国）は、アメリカ（101億ドル）、マレーシア（39億ドル）、インドネシア（23億ドル）、オーストラリア（9.8億ドル）である。

農産物の貿易収支に目を向けると、日本、韓国への輸出が輸入を超過しているが、インドネシア、マレーシア、アメリカ、ニュージーランドとは大幅な赤字となっている。具体的な品目をいうと、日本、韓国へ水産物やその他農産物を輸出し、インドネシア、マレーシア、米国から油糧種子・油脂、ニュージーランドから酪農製品を輸入している状況にある。なおマレーシアやインドネシアからの油糧種子・油脂輸入では、パーム油が大部分を占めている。

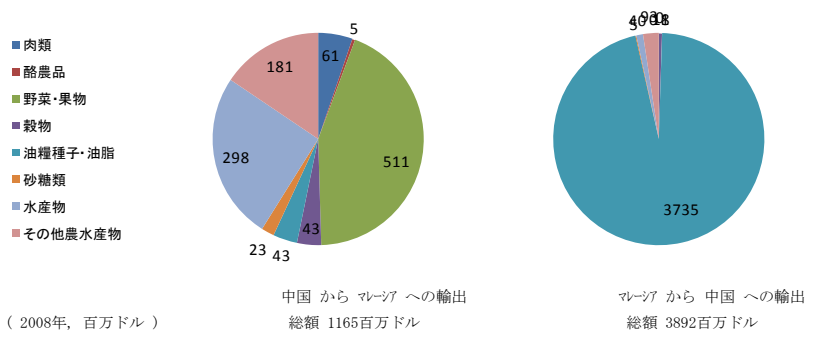
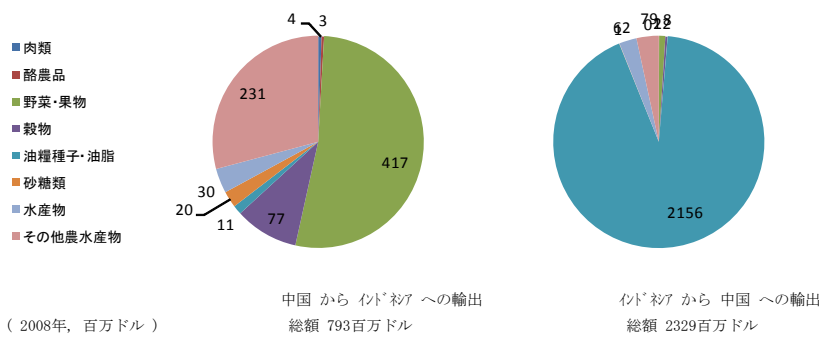
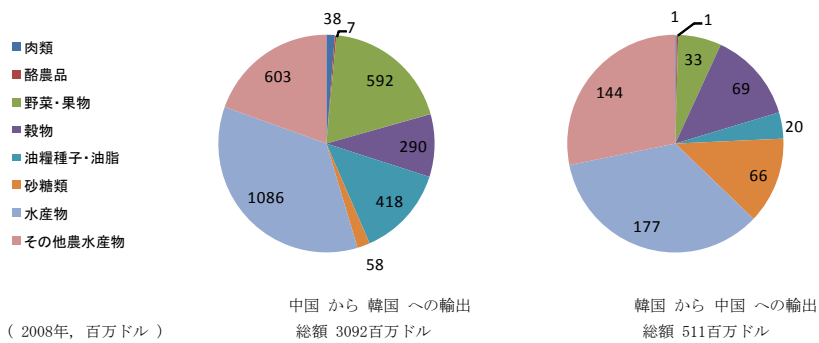
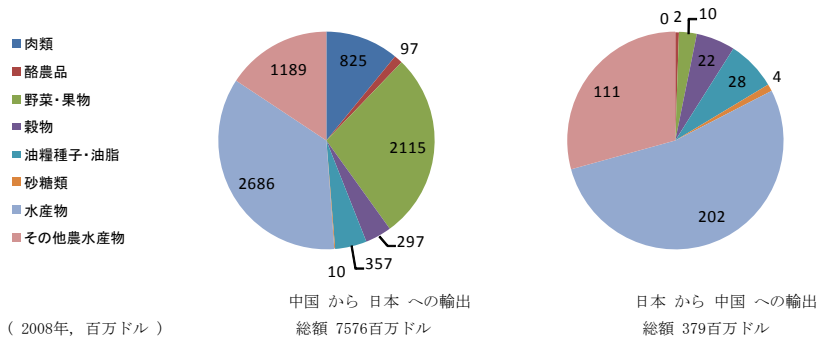
第3-12図から農産物輸出相手国を類型化すると、大きく二つに区別できる。まず一つは、インドネシアをはじめとする野菜・果物の輸出の多い国（マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、インド、オーストラリア、ニュージーランド）である。

野菜・果物の輸出額実績を見ると、マレーシア（5.1億）、インドネシア（4.2億ドル）、タイ（3.6億ドル）、ベトナム（3.3億ドル）、フィリピン（2.1億ドル）、オーストラリア（2.0億ドル）、シンガポール（1.4億ドル）、インド（0.69億ドル）、ニュージーランド（0.4億ドル）の順になっている。

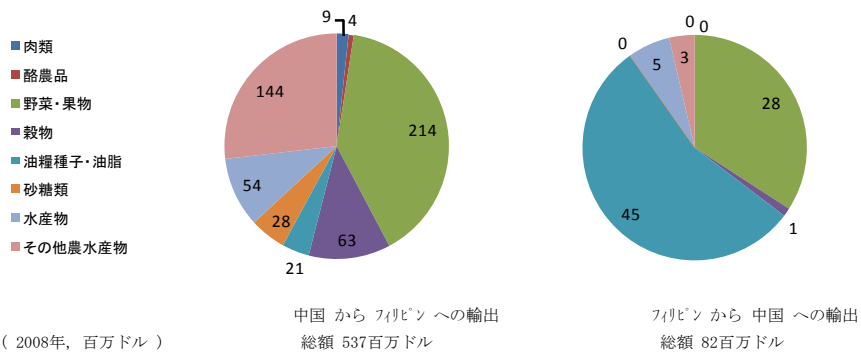
もう一つの区分は、水産物輸出の多い国（日本、韓国、アメリカ）である。輸出額は、日本（27億ドル）、アメリカ（20億ドル）、韓国（11億ドル）となっている。なおこれら三カ国については、水産物以外に、野菜・果物の輸出も多い。

中国の農産物輸入相手国については、日本や韓国（水産物）、インドネシア、マレーシア、フィリピン、インド、アメリカ（油糧種子・油脂）、タイやベトナム（野菜・果物）、シンガポール、オーストラリア（穀物）、ニュージーランド（酪農製品）に区分できる。

品目別輸入額を確認すると、水産物（日本2億ドル、韓国1.8億ドル）、油糧種子・油脂（インドネシア22億ドル、マレーシア37億ドル、フィリピン0.5億ドル、インド1.4億ドル、アメリカ75億ドル）、野菜・果物（タイ3.8億、ベトナム4.1億ドル）、穀物（シンガポール2億ドル、オーストラリア3.4億ドル）、酪農製品（ニュージーランド、3.5億ドル）であった。



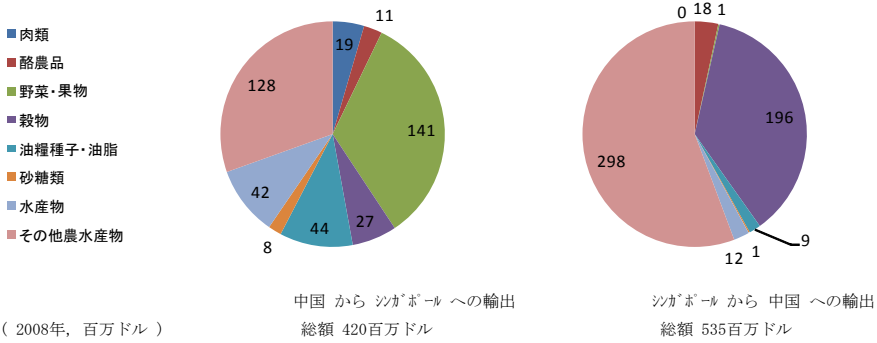
第 3-12 図 中国とアジア太平洋諸国との農林水産品貿易 (その 1)



(2008年, 百万ドル)

中国 から フィリピン への輸出
総額 537百万ドル

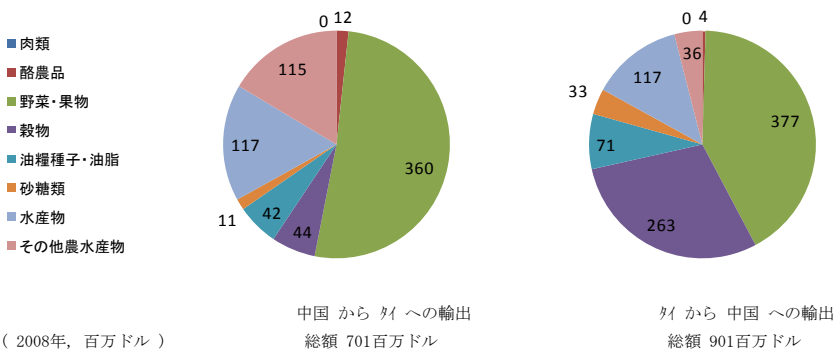
フィリピン から 中国 への輸出
総額 82百万ドル



(2008年, 百万ドル)

中国 から シンガポール への輸出
総額 420百万ドル

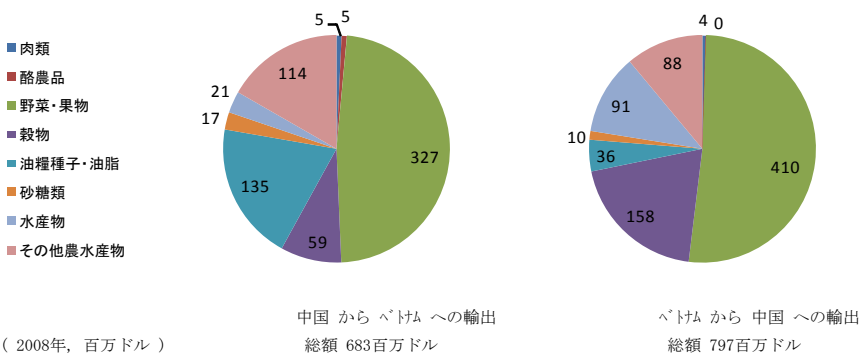
シンガポール から 中国 への輸出
総額 535百万ドル



(2008年, 百万ドル)

中国 から タイ への輸出
総額 701百万ドル

タイ から 中国 への輸出
総額 901百万ドル

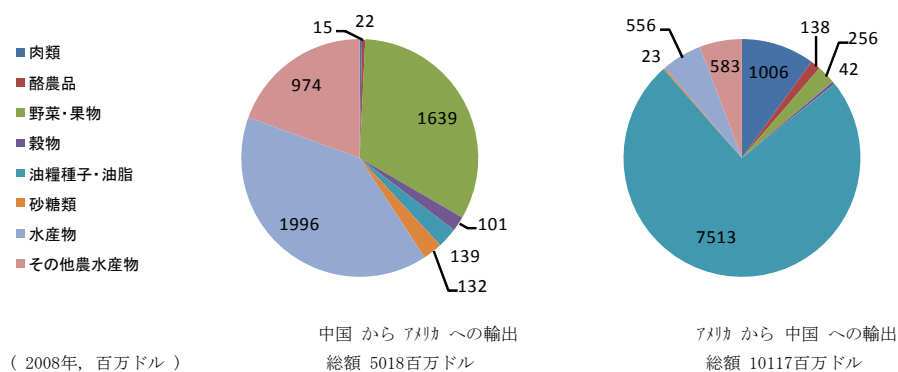
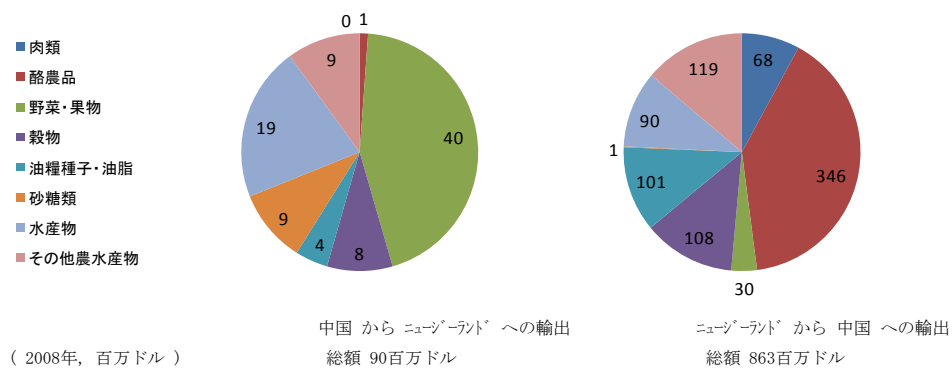
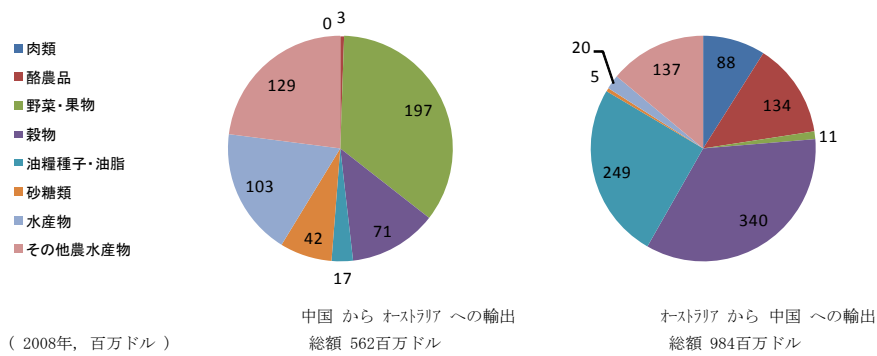
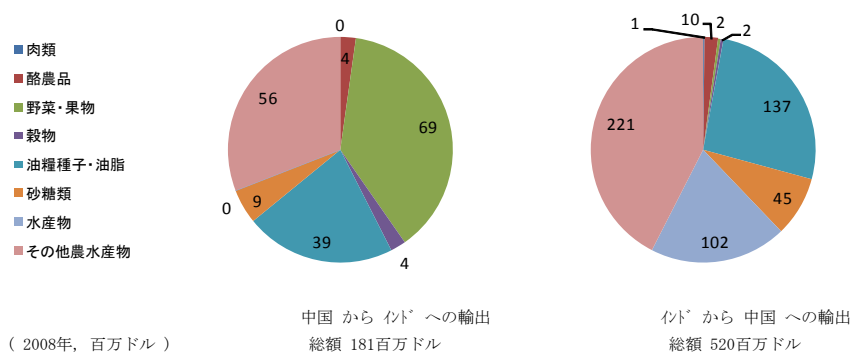


(2008年, 百万ドル)

中国 から ベトナム への輸出
総額 683百万ドル

ベトナム から 中国 への輸出
総額 797百万ドル

第3-12図 中国とアジア太平洋諸国との農林水産品貿易 (その2)



第 3-12 図 中国とアジア太平洋諸国との農林水産品貿易 (その 3)

(3) 中国と日本、韓国との貿易

本節では、中国にとって非常に重要なアジアの隣国である日本と韓国との貿易を観察しておこう（第3-13図、第3-14図参照）。

まず韓国との貿易である。中国から韓国への全品目の輸出額は、2003年に201億ドルであったが、2008年に739億まで増加している。韓国からの輸入額は、2003年に351億ドルであり、2009年には867億ドルまで拡大している。

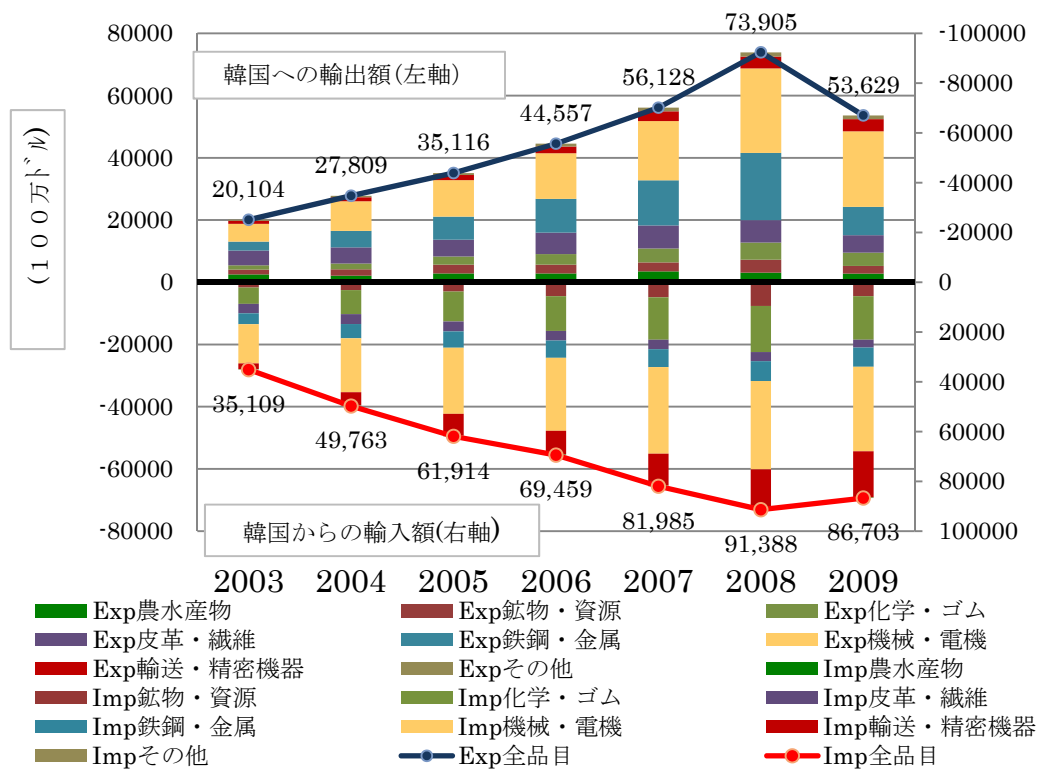
韓国への輸出では、機械・電機や鉄鋼・金属が多く、韓国からの輸入では、機械・電機、化学・ゴムが大きい。貿易収支は、2003～2009年に常に赤字であった。

農産物に関しては、中国から韓国への輸出額が、2003年に27億ドルであったが、2009年に31億まで増加している。韓国からの輸入額は、2009年まで増加傾向にあるが、輸出に比べ金額が非常に小さく、貿易収支は中国の黒字となっている。韓国への輸出では、2007年までは、穀物と水産物が大きかったが、近年では、穀物に代わり、野菜・果物の比率が高まっている

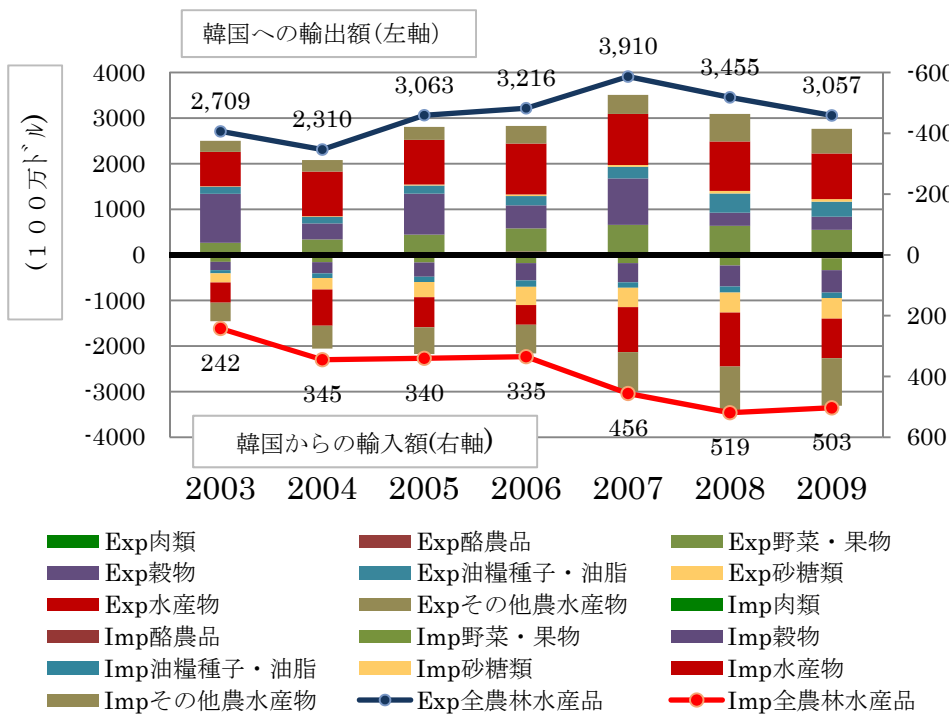
次に日本との関係を見てみよう。日本への全品目輸出額は、2003年の594億ドルから2008年に1162億ドルまで増加している。日本からの輸入額も、574億ドル（2003年）から1294億ドル（2008年）まで増加傾向にあった。貿易収支は、2003年や2005年に黒字であったが、ここ数年は赤字である。

日本への農産物輸出額は、2003年の71億ドルから2007年に95億ドルまで微増した後、近年に至って減少している。しかしながら、日本の輸出額が5億ドルにもならないため、継続して収支は黒字であり、2008年には72億ドル近くの出超であった。

日本への農産物輸出では、水産物や野菜・果物が大きな比重を占めており、その他の農水産物、肉類などが続いている。一方、日本の中国への輸出は、水産物とその他農産物が大きく、この二つの部門で、9割以上となっている。

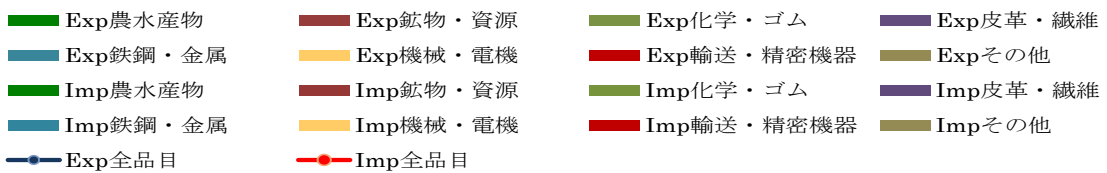
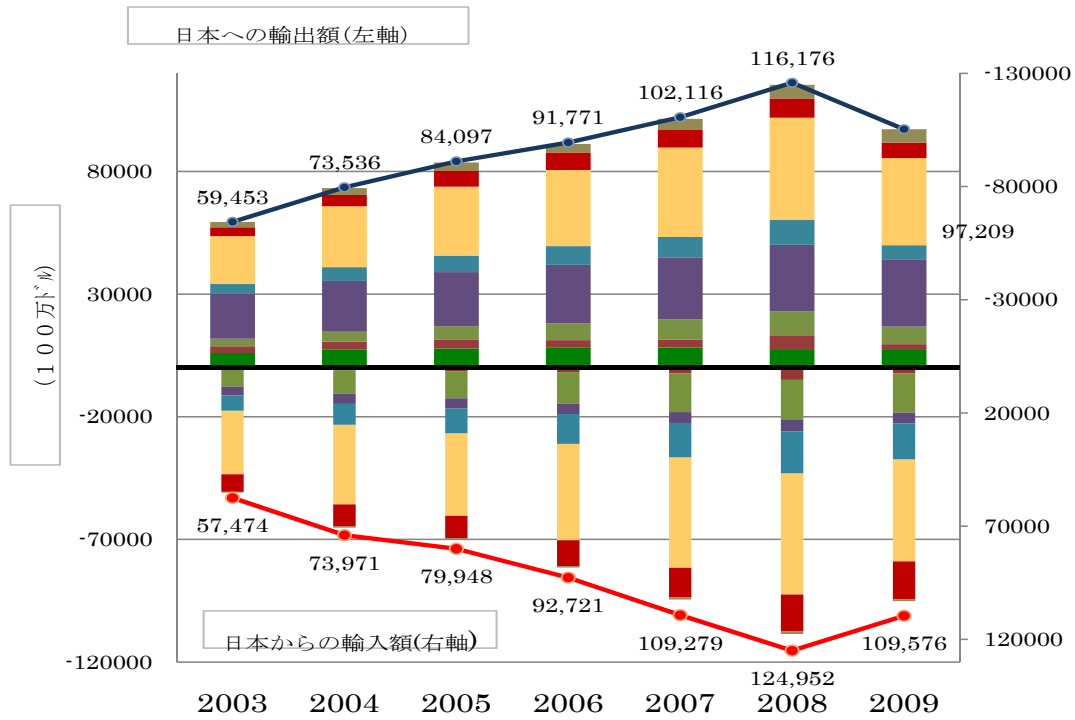


(a) 全品目

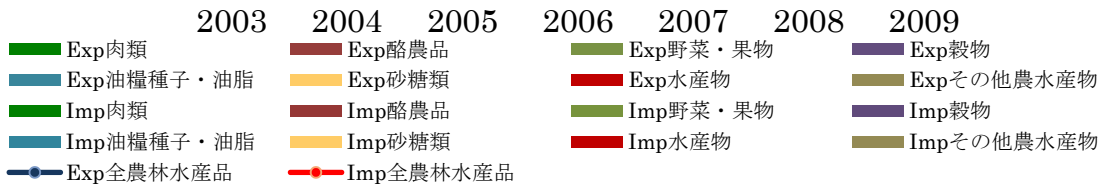
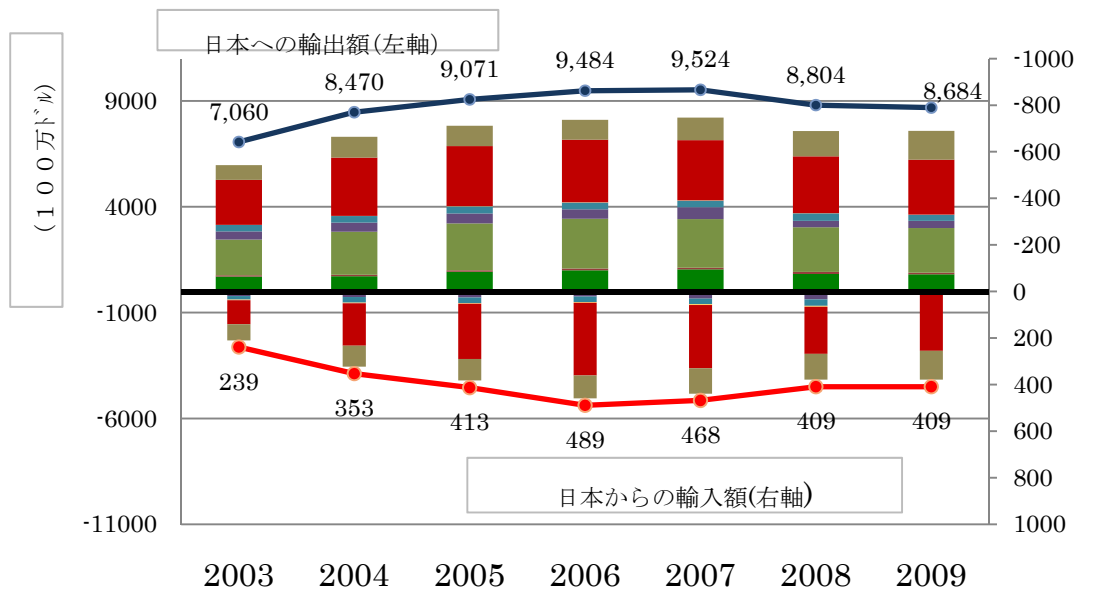


(b) 農水産物

第 3-13 図 中国の全品目輸出入額の推移 (対韓国)



(a) 全品目



(b) 農水産物

3. ASEAN・中国自由貿易協定（ACFTA）における中国の高度センシティブ品目³

（1）FTA 協定

2010年1月にASEAN（インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイの先行加盟6カ国）と中国のFTAが本格発効し、中国は、2003年の輸入額の93%に相当するノーマルトラック品目の関税を撤廃した。

中国の譲許表における関税撤廃スケジュールは次のようになっており、アーリーハーベスト品目は2006年までに0%とし、ノーマルトラック品目は、2010年までに0%とするが、うち150品目までは2012年までに実施することになっている。

（2）センシティブトラック

中国の関税撤廃スケジュールにはセンシティブトラックが設けられており、この点に注意する必要がある。センシティブトラックは、400品目および輸入総額の10%を上限と規定しており、2018年までに関税を0～5%まで削減する。

またセンシティブ品目の40%以下、あるいはHS6桁100品目を高度センシティブ品目として指定できる。この高度センシティブ品目は、2015年までに関税を50%以下へ削減することになっている。

（3）高度センシティブ品目について

中国は、日本や韓国に対して、労働集約的な農業部門で比較優位があるため、両国とのFTAでセンシティブ品目を設定するならば、工業部門の製品に集中すると思われる。ではASEANとの関係ではどうであろうか？要素賦存の観点からみると、ASEAN諸国も、廉価な労働が（資本に比べ）相対的に豊富にあるといえる。中国ではこのような廉価な労働が工業部門でも活用されるようになっているが、ASEANでは依然として農業部門で利用されている。それ故、農業の比較優位性は、ASEANにあると想像される。

この点を念頭において、中国のセンシティブ品目をみると（第3-1表）、やはり農産物であるとうもろこしやコメを指定している。また加工品の小麦粉、大豆油、しょ糖なども含まれている。これらの品目は、ASEAN現地の安価な農産物を原料をもとに製造され輸出される可能性があり、中国国内加工部門の保護対策として設けられていると考えられる。

第 3-1 表 ACFTA における中国の高度センシティブ品目（その 1）

類		HSコード	品名
10	穀物	1005	とうもろこし
		1006	コメ
11	穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉、イヌリン及び小麦グルテン	1101	小麦粉及びメスリン粉
		1102	穀粉（小麦粉及びメスリン粉を除く。）
		1103	ひき割り穀物、穀物のミール及びペレット
		1104	その他の加工穀物（例えば、殻を除き、ロールにかけ、フレーク状にし、真珠形にとう精し、薄く切り又は粗くひいたもの。第 10.06 項の米を除く。）及び穀物の胚芽（全形のもの及びロールにかけ、フレーク状にし又はひいたものに限る。）
15	動物性又は植物性の油脂及びその分解生産物、調製食用脂並びに動物性又は植物性のろう	1507	大豆油及びその分別物（化学的な変性加工をしてないものに限るものとし、精製してあるかないかを問わない。）
		1511	パーム油及びその分別物（化学的な変性加工をしてないものに限るものとし、精製してあるかないかを問わない。）
		1514	菜種油及びからし油並びにこれらの分別物（化学的な変性加工をしてない油及び分別物に限るものとし、精製してあるかないかを問わない。）
17	糖類及び砂糖菓子	1701	甘しや糖、てん菜糖及び化学的に純粋なしよ糖（固体のものに限る。）
24	たばこ及び製造たばこ代用品	2402	葉巻たばこ、シェルート、シガリロ及び紙巻たばこ（たばこ又はたばこ代用品から成るものに限る。）
		2403	その他の製造たばこ及び製造たばこ代用品、シートたばこ並びにたばこのエキス及びエッセンス
31	肥料	3102	窒素肥料（鉍物性肥料及び化学肥料に限る。）
		3105	肥料成分（窒素、りん及びカリウム）のうち二以上を含有する肥料（鉍物性肥料及び化学肥料に限る。）及びその他の肥料並びにこの類の物品をタブレット状その他これに類する形状にし又は容器とも1個の重量が10キログラム以下に包装したもの
37	写真用又は映画用の材料	3702	感光性のロール状写真用フィルム（露光してないものに限るものとし、紙製、板紙製又は紡織用繊維製のものを除く。）及び感光性のロール状インスタントプリントフィルム（露光してないものに限る。）
39	プラスチック及びその製品	3901	エチレンの重合体（一次製品に限る。）
40	ゴム及びその製品	4001	天然ゴム、バラタ、グタペルカ、グアユール、チクルその他これらに類する天然ゴム（一次製品、板、シート又はストリップの形状のものに限る。）
44	木材及びその製品並びに木炭	4410	パーティクルボード、オリエンテッドストラッドボード（OSB）その他これに類するボード（例えば、ウェファーボード）（木材その他の木質の材料のものに限るものとし、樹脂その他の有機結合剤により凝結させてあるかないかを問わない。）
		4411	繊維板（木材その他の木質の材料のものに限るものとし、樹脂その他の有機物質により結合してあるかないかを問わない。）
		4412	合板、ベニヤドパネルその他これらに類する積層木材
		4416	木製のたる、おけその他これらに類する容器及び木製のこれらの部分品（たる材及びおけ材を含む。）
		4417	木製の工具並びに工具、ほうき又はブラシの木製のボデー、柄及び握り並びに靴の木型

第 3-1 表 ACFTA における中国の高度センシティブ品目（その 2）

48	紙及び板紙並びに製紙用パルプ、紙又は板紙の製品	4802	筆記用、印刷用その他のグラフィック用に供する種類の塗布していない紙及び板紙、せん孔カード用紙及びせん孔テープ用紙（ロール状又は長方形（正方形を含む。）のシート状のものに限るものとし、大きさを問わず、第48.01項又は第48.03項の紙を除く。）並びに手すきの紙及び板紙
		4803	トイレットペーパー、化粧用ティッシュ、紙タオル、紙ナプキンその他これらに類する家庭用又は衛生用に供する種類の紙、セルロースウォッディング及びセルロース繊維のウェブ（ロール状又はシート状のものに限るものとし、ちりめん加工をし、しわ付けをし、型押しをし、せん孔し、表面に着色し若しくは装飾を施し又は印刷したものであるかないかを問わない。）
		4805	その他の紙及び板紙（塗布していないものでロール状又はシート状のものに限るものとし、この類の注3に規定する加工のほか更に加工をしたものを除く。）
		4807	接着剤を使用して張り合わせた紙及び板紙（ロール状又はシート状のものに限るものとし、内部を補強してあるかないかを問わず、表面に塗布し又は染み込ませたものを除く。）
		4808	コルゲート加工をし（平らな表面紙を張り付けてあるかないかを問わない。）、ちりめん加工をし、しわ付けをし、型押しをし又はせん孔した紙及び板紙（ロール状又はシート状のものに限るものとし、第48.03項の紙を除く。）
		4809	カーボン紙、セルフコピーペーパーその他の複写紙及び転写紙（謄写版原紙用又はオフセットプレート用の塗布し又は染み込ませた紙を含み、ロール状又はシート状のものに限るものとし、印刷してあるかないかを問わない。）
		4812	製紙用パルプ製のフィルターブロック、フィルタースラブ及びフィルタープレート
		4813	製造たばこ用巻紙（特定の大きさに切り、小冊子状にし又は円筒状にしたものであるかないかを問わない。）
		4816	カーボン紙、セルフコピーペーパーその他の複写紙及び転写紙（箱入りにしてあるかないかを問わないものとし、第48.09項のものを除く。）並びに謄写版原紙及び紙製のオフセットプレート（箱入りにしてあるかないかを問わない。）
		4818	トイレットペーパーその他これに類する家庭用又は衛生用に供する種類の紙、セルロースウォッディング及びセルロース繊維のウェブ（幅が36センチメートル以下のロール状にし又は特定の大きさ若しくは形状に切つたものに限る。）並びに製紙用パルプ製、紙製、セルロースウォッディング製又はセルロース繊維のウェブ製のハンカチ、クレンジングティッシュ、タオル、テーブルクロス、ナプキン、乳児用のおむつ、タンポン、ベッドシーツその他これらに類する家庭用品、衛生用品及び病院用品、衣類並びに衣類附属品
		4823	その他の紙、板紙、セルロースウォッディング及びセルロース繊維のウェブ（特定の大きさ又は形状に切つたものに限る。）並びに製紙用パルプ、紙、板紙、セルロースウォッディング又はセルロース繊維のウェブのその他の製品
51	羊毛、織獣毛、粗獣毛及び馬毛の糸並びにこれらの織物	5105	羊毛、織獣毛及び粗獣毛（カードし又はコームしたもの（小塊状のコームした羊毛を含む。）に限る。）
52	綿及び綿織物	5203	綿（カードし又はコームしたものに限る。）
85	電気機器及びその部分品並びに録音機、音声再生機並びにテレビジョンの映像及び音声の記録用又は再生用の機器並びにこれらの部分品及び附属品	8528	モニター及びプロジェクター（テレビジョン受像機器を有しないものに限る。）並びにテレビジョン受像機器（ラジオ放送用受信機又は音声若しくはビデオの記録用若しくは再生用の装置を自蔵するかしないかを問わない。）
87	鉄道用及び軌道用以外の車両並びにその部分品及び附属品	8702	10人以上の人員（運転手を含む。）の輸送用の自動車
		8703	乗用自動車その他の自動車（ステーションワゴン及びレーシングカーを含み、主として人員の輸送用に設計したものに限るものとし、第87.02項のものを除く。）

4. まとめ

本章では、中国の貿易について、さまざまな角度から観察し、その実態の把握に努めた。中国からアジア・太平洋諸国に向けた輸出の総額は2009年に5264億ドルで、農水産品は249億ドルであった。全体輸出では、機械・電機、皮革・繊維、鉄鋼・金属などが、農水産物輸出では、水産物や野菜・果実が主な品目であった。

中国とアジア太平洋諸国との貿易で、中国の主要輸出相手国は、アメリカ、日本、韓国となっており、主要輸入相手国も、日本、韓国、アメリカである。このように金額ベースで判断すると、中国にとって、日本、韓国、アメリカが最も重要な貿易パートナーである。

中国の農産物主要輸出相手国（中国が輸出する国）は、日本、アメリカ、韓国、マレーシアであり、農産物主要輸入相手国は、アメリカ、マレーシア、インドネシア、オーストラリアである。

中国がアジア・太平洋諸国から輸入する金額は、2009年に3875億ドルとなっている。品目では、機械・電機が突出しており、化学・ゴムや鉱物・資源も比較的大きい。鉱物・資源は、経済成長で工業化が進むにつれて、その需要が増大していることを反映したものである。農水産物輸入に目を向けると、油糧種子・油脂が圧倒している。油糧種子・油脂の輸入先国は、米国が半分以上を占め、マレーシアやインドネシアからも輸入している。

競争力指数を計算すると、2003年は、その他、皮革・繊維、農水産物などで高く、化学・ゴム、鉱物・資源、輸送・精密機器で低い。皮革・繊維や農水産物を含め、労働集約的な産業で、豊富な低賃金労働を武器に輸出競争力を高めていた。一方、化学・ゴムは資本集約的な、輸送・精密機器は知識・技術集約的な産業であり、この時点の中国では、資本などの生産要素蓄積が相対的に小さく、これらの部門が比較劣位産業であったことが分かる。2008年の指数では、依然としてその他や皮革・繊維で競争力を維持しているが、農作物は競争力が低下し輸出入が均衡した状態にある。この時期、中国の比較優位産業が、農業（土地利用部門）から資本集約的な部門に移行していることが窺える。

中国は、ASEANとのFTAで、2006年までに実施済みのアーリーハーベスト品目に加え、2003年の輸入額の93%に相当するノーマルトラック品目の関税を撤廃した。しかし、センシティブ品目の40%以下、あるいはHS6桁100品目に対しては、高度センシティブ品目として区分でき、2015年までに関税を50%以下へ削減することになっている。このセンシティブ品目をみると、農産物であるとうもろこしやコメ、また加工品の小麦粉、大豆油、しょ糖などを指定している。

1 本章の分析対象地域から、香港、台湾が除かれていることに注意されたい。このため、主要貿易相手国の順位などの記述では、これらの地域を含めた場合と異なることがある。

2 本節は、厳善平「中国アグリビジネス」『現代中国ビジネス論』佐々木信彰編、世界思想社、2006年を参考にした。

3 本節の執筆では、福地亜希「アジアにおけるFTA進展」『経済レビュー』2009年を参考にした。